2016年11-12月：JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項　　目	記　載　内　容
単行本		
1	著者名	小島　肇
	書名	有用性化粧品の処方とその活用
	出版社名，発行地，年号，ページ	シーエムシー出版，東京（2016）pp.147-151
	掲載内容（150字以内）	化粧品の総合評価の方法について解説した.
国内学会		
1	発表者名	伊藤浩太[*1]，榊原隆史[*1]，古川正敏*1，奥村宗平[*1]，越田 美[*1]，河村公太郎[*1]，松浦正男[*1]，小島　肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] 化合物安全性研究所
	演題名	牛摘出角膜を用いた混濁度及び透過性試験法（BCOP 法：眼刺激性代替法試験）における角膜の病理組織学的検査による弱刺激性物質の評価
	学会名，発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会（2016.11）（福岡）
2	発表者名	小島　肇
	演題名	JaCVAM における3Rs 原則と動物実験代替法
	学会名，発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会（2016.11）（福岡）
3	発表者名	萩原沙織[*1]，篠田伸介[*1]，仲原　聡[*2]，小島　肇，大森　崇[*3]，遠藤麻衣[*4]，佐竹真悠子[*4]，池田英史[*5]，西浦英樹[*6]，笠原利彦[*7]，山本祐介[*7]，加藤雅一[*8]，菅原　桂[*8]
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] 株式会社薬物安全性試験センター [*2] 丸石ラボ株式会社 [*3] 神戸大学医学部 [*4] 同志社大学 [*5] 株式会社マンダム [*6] 日本コルマー株式会社 [*7] 富士フイルム株式会社 [*8] 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
	演題名	培養角膜上皮モデルLabCyte CORNEA-MODEL24眼刺激性試験の多施設バリデーション研究
	学会名，発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会（2016.11）（福岡）

4	発表者名	加藤義直[*1], 山本直樹[*2], 佐藤　淳[*1], 中田　悟[*1], 小島　肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] 日本メナード化粧品株式会社 [*2] 藤田保健衛生大学 共同利用研究施設
	演題名	不死化ヒト角膜細胞株(iHCE-NY)を用いて作製した三次元角膜再構築モデルの眼刺激性試験代替法　～再構築ヒト角膜様上皮(RhCE)試験法用性能標準の30物質(TG492PS)に対する回復性を取り入れた予測性～
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会(2016.11)(福岡)
5	発表者名	藤田正晴[*1], 笠原利彦[*1], 山本裕介[*1], 渡辺真一[*2], 菅原経継[*2], 若林晃次[*3], 田原　宥[*3], 堀江宣行[*4], 藤本恵一[*4], 高橋寛明[*5], 黒川嘉彦[*5], 小野　敦[*6], 小島　肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] 富士フイルム株式会社　環境・品質マネジメント部　安全性評価センター [*2] ライオン株式会社　研究開発本部　環境・安全性評価センター [*3] 三井化学株式会社　RC・品質保証部　化学品安全センター [*4] 住友化学株式会社　生物環境科学研究所 [*5] 日産化学工業株式会社　生物科学研究所　安全性研究部 [*6] 岡山大学
	演題名	CysおよびLys誘導体を用いた皮膚感作性試験代替法(ADRA法)のバリデーション研究のための技術移転結果報告
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会(2016.11)(福岡)
6	発表者名	松成夏美[*1], 九十九英恵[*1], 謝　丹[*1], 岡　朱音[*1], 小島　肇, 板垣宏[*1]
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] 横浜国立大学
	演題名	タンパク質のアレルギー性を評価するin vitro 試験法の開発
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会(2016.11)(福岡)
7	発表者名	内野　正, 宮﨑　洋[*1], 山下邦彦[*2], 竹澤俊明[*3], 小島　肇, 秋山卓美 , 五十嵐良明
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] 株式会社ダイセル [*2] 大阪大学大学院医学系研究科 [*3] 農業・食品産業技術総合研究機構
	演題名	改良型コラーゲンビトリゲル膜チャンバーでのTHP-1細胞の細胞接着性及びサイトカイン産生量
	学会名, 発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会(2016.11)(福岡)

8	発表者名	VO P.T.H[*1], Narita K[*1], Nakagawa F[*1], Kojima H, Itagaki H[*1]
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	[*1] Yokohama National University
	演題名	Reducing false negative results in an in vitro skin sensitization test: The human cell line activation test
	学会名，発表年月及び場所	日本動物実験代替法学会第29回大会（2016.11）（福岡）
9	発表者名	小島　肇
	演題名	医薬品食品領域での動物愛護管理法の現在と未来
	学会名，発表年月及び場所	NPO法人動物実験関係者連絡協議会　第5回シンポジウム 「動物愛護管理法」の過去・現在・未来（2016.12）（東京）
国際学会		
1	発表者名	Kojima H.
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	“Guidance on use of alternative methods for testing in the safety assessment of cosmetics and quasi-drug”：医薬部外品の安全性評価に資する動物実験代替法のガイダンス
	学会名，発表年月及び場所	Asian Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (Asian Congress) 2016, (2016.11) (Karatsu, Saga)
レギュラトリーサイエンス学会		
1	参加者名	小島　肇
	会議名（英文の場合は和訳も記載）	経済協力開発機構 皮膚感作性専門家会議および眼刺激性/腐食性専門家会議
	開催場所，年月	フランス，パリ（2016.11）
	会議内容（150字以内）	日本から提案している皮膚感作性試験代替法IL-8 Luc assayの試験法ガイドライン（TG）案について説明し，各国の代表と質疑応答を行った．引き続き，日本から提案している光安全性試験ROSアッセイのTG案の概要を説明した．
2	参加者名	小島　肇
	会議名（英文の場合は和訳も記載）	OECD(経済協力開発機構) 動物実験代替法バリデーション運営委員会議
	開催場所，年月	フランス，パリ（2016.11）
	会議内容（150字以内）	日本から申請して承認された「ガイダンスNo.231　Bhas42細胞形質転換試験」に用いるBhas42細胞が他の細胞とコンタミして，その起源が異なっていたことが最近発見された事情を説明した．